



奈良女子大学同窓会佐保会

## 滋賀支部だより

平成 31 年 2 月 15 日  
佐保会滋賀支部

今回の支部だよりは、おうみ佐保塾の開催報告、佐保塾史跡めぐり、「こんにちは☆支部会員さん」、などを掲載しています。佐保会報、ならじよ Today とあわせてお読みください。

### 第 20 回おうみ佐保塾



#### 『農あるくらしの魅力 「ゆたかさの中身」考』

10 月 12 日(金)草津市まちづくりセンターにて、第 20 回おうみ佐保塾が開催されました。講師は高田正子さん(S42 家住)。稲作中心にお話いただいた前回のお話を基に、より俯瞰的な視点から、農あるくらしについてご講義いただきました。

里山、集落、田んぼ。ところどころに平地林。それが二千年を優に超える日本の農業の歴史を背負ってきた、農村の風景です。都会の人は「自然が豊かね」と形容されますが、自然のままに放置してはこういう風景にはなりません。米を中心とした食料を得る為に人間が自然に働きかけることにより、出来た風景なのです。

このような人間の営みを、動植物たちが利用しようと工夫をこらしてきます。稲作の過程で田んぼに水が張られた時も抜かれた時も生き抜ける体になったスギナ、減反政策で麦を作れば麦の根方で巣を作りだすヒバリ、など、人間の仕事に柔軟に対応して動植物たちが版図を広げ、人間だけがうまい汁を吸うことはできないのだと思知らされます。ですが農業従事者は、そんな動植物を皆殺しにはしません。自分たちもまた自然の恵みにより生かされているのだ、と知っているからです。

農村風景には、地理的な条件によって異なる点もあります。かつて東北・信州・湖北に見られた断熱性に優れた家の作り……大壁づくりという柱を塗りこめ隙間風を防ぐ技法や、土座という保温の工夫は、温暖な地方には無いものです。しかしどの地方でも、資材は全て身近な自然からいただいて来ました。しかも専門家任せの現代とは違い、親類縁者の協力を得ながら、自分たちの手で家を作り上げました。

竹など建築資材の最も状態の良い伐採時期を考え、弁柄を塗るなど資材を長持ちさせる加工を施し、完成後も何年か毎の補修を実施。注目すべきことは、資材の全てが、朽ちた後は土に還ることです。エコであると共に、人の心に「万物はいずれ土に還るのだ」との、生あるものの宿命を感得させることが出来たと推察されます。

これらの家屋は一代限りのものではありませんから、誰もが使い易い作りにせざるをえません。また、個人用の部屋は無く、集団で暮らす為のものであり、更には、何時でも他の家の人を迎え入れるべき場でもありました。そこから、むきだしの感情を表に出さないという、農村の人に特有な気質が生まれたのではと推察されます。



米を作って食べる為の稲作ではありますが、籾殻や藁という食べる以外の部分も全て使い切る「一物全体活用」に、切れたワラジさえ粗末にせず感謝して使う姿勢に、そして稲を愛し慈しむ姿に、高田さんは「ゆたかさ」の真の姿を見ます。地面を舗装して泥や雑草を封じ込め、気温の変化はエアコンで制御する現代の生き方とは対極にある「農ある暮らし」。私の心も暖かく豊かになった気が致しました。  
(高原 早苗)

## 佐保塾史跡めぐり

### 第19回佐保塾史跡めぐり「湖南三山めぐり」

11月21日(水)に「第19回佐保塾史跡めぐり～湖南三山めぐり」を佐保会本部と滋賀支部の共催で開催しました。湖南市にある善水寺、長寿寺、常楽寺は湖南三山と称されていて、いずれも奈良時代に創建された、国宝を有する天台宗のお寺です。この歴史ある三つのお寺をバスで巡りました。

日々の行いが幸いしたのでしょうか、当日は快晴となりました。2016年の「おうみ佐保塾」で講師をおつとめいただいた、いかいゆり子先生にガイドをお願いし、遠方の富山、福井からご参加の方もお迎えして、総勢47名での賑やかな旅となりました。佐保塾にご参加くださる皆様の目印になればと思ひ、この日のために役員総出で手作りしてお花のバッジが、お役にたてる日がやってまいりました。



善水寺

まず向かったのは善水寺です。檜皮葺の屋根と大きな鬼瓦が荘厳さを醸し出す国宝の本堂で講話を伺った後、ご本尊薬師如来は秘仏のためお目にかかれませんでした。堂内に安置された四天王、十二神将など30余軀の仏像を拝観しました。善水寺の寺号は、桓武天皇が御病の際にこの地の霊水を献上したところ、たちまち平癒されたというご縁から賜ったとされています。そのゆかりの名水「善水元水」をペットボトルに入れてお持ち帰りの方もおられました。

昼食後は、長寿寺へ向かいました。山門から国宝の本堂へと続く長い参道は鮮やかに彩られ、美しい紅葉のトンネルの様でした。参道脇には聖武天皇の菩提を弔うために建立された、極めて珍しい、石だけで作られた石造多宝塔がありました。聖武天皇の皇女(後の孝謙天皇)のご長寿を祈願したことで寺号を授かったというこのお寺のご本尊は、皇女生誕にちなむ子安地藏尊ですが、秘仏のため春日厨子(国宝)の中に安置されていました。



常楽寺

最後は常楽寺です。元明天皇の勅願寺として創建され栄えたお寺ではありますが、無住職時代には仏像が盗まれるという災難にもあわれたとのことでした。風神と摩喉羅迦王は未だ見つからないそうです。それでも本堂内に雷神と二十八部衆が整然と立ち並ぶ様子は迫力満点でした。また、本堂横の石段を上るとそこには国宝の三重塔があり、石段下から見上げた景色は、周囲のモミジやドウダンツツジと相まって、まるで絵葉書を見ているような美しさでした。

晩秋の一日、短い時間ではありましたが、滋賀県の歴史と文化に触れ、紅葉も十分に満喫いただける旅となりました。  
(荒木 美紀)

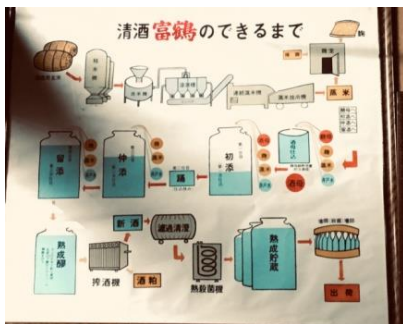
## 《こんにちは☆支部会員さん》 酒蔵訪問記

12月7日、中村晃子さん（H4生物）を仕事場（愛知酒造）に訪ねました。雨かなと思ったお天気も、誰の心掛けがいいのか（おそらく、中村さんをはじめ愛知酒造のみなさん、そして訪問した私たち全員だと思う）なんとか降らずに持ちこたえてくれて、良かった良かった。私たちを迎えてくれた中村さん、総会などでお会いするときの印象とは異なり、襟に「清酒富鶴」と染めぬいた法被姿は、もうすっかり造り酒屋の奥様です。

創業明治2年の老舗・造り酒屋の5代目に嫁がれるにあたって、さぞかし不安だったのではと思いきや、「不安は特になかった」とのこと。「最初は手伝わなくていいといわれていたから」と。それがどうして？という質問は、あまりにも関西のおばちゃんすぎると思い、やめておきました。

さて、大勢で押しかけた私たちは、酒蔵を案内していただきながら、酒造りの手順の説明を受けたのですが、この原稿を任された私は、近頃とみに記憶力が低下しており、間違っただけを書いてもいけないので、それは、写真と、そして中村さん自ら書いておられるHPの支部会員日記を見ていただくことにして、ここでは印象に残ったことを書きたいと思います。

原料のお米は、酒母には酒米を使いますが、あとは「日本晴れ」という品種のお米を使うそうです。そしてこれは「お米は一粒たりとも無駄にするな」と言われた世代にとっては、かなり抵抗のある話ですが、お酒を美味しく作るために、お米を「研ぐ」、削るのだそうです（酒造りの場合は「磨



く」という)。食べる部分の三分の一も削ると聞いて、勿体ないなあと思いました。でも、よく「磨いた」お米を使ってできるお酒（吟醸、大吟醸）が人気だそうで、仕方のないことなのでしょう。あらためてお酒って贅沢品なんだと思いました。

発酵させるタンクは六十年以上使われているそうで、作られた年と容量が書かれています。自分と同年のタンクを見つけて、体型も含めて妙に親近感を覚えました。

発酵すると熱が生じます。冷やさなければなりません。だから酒造りは極寒の時期に行われます。実りの秋に取れたお米を使い、寒い冬にお酒を造る。自然とあっていますね。ただ、東北では寒すぎて、温める必要があるのだそうです。適温を保つように注意深くお世話する。気遣いのいる作業だと思います。

「生物相手の酒造りなので、日々異なる状況が面白くもあり、大変でもあります」とおっしゃる中村さん。「杜氏さんのような作業判断がまだできない」ともおっしゃいますが、話の中の「まだ」という言葉に、「いつかはきっと」という意欲を感じました。頑張ってくださいね。

見学の後、色々なお酒を試飲させていただきました。美味しかった、思わず「生酒」を購入。実は私、今もほろ酔いです。

（松本 匡代）



## お知らせ

### 支部総会

日時：6月9日（日）10時30分～

場所：琵琶湖ホテル

講演：講師に NPO 法人フィールド理事長の堀内保彦さんをお迎えし、猿沢池の近くにあった奈良で2番目に古い北村写真館の北村信昭とその写真について、お話いただきます。

詳細は4月下旬にご案内します。

### おうみ佐保塾

今年度の講師は池田重信氏です。S47年にBBCびわ湖放送入局、報道部長などを歴任。現在は帝塚山学院大学講師。10月と11月に各1回、報道に関する興味深いお話をご講義いただく予定です。

### 本部分行事への参加のおすすめ

- ・講演会：3月9日（土）13：30～15：00 於 佐保会館 参加費 500円  
講師 飯島礼子氏（H12 文古代）奈良県立美術館 主任学芸員  
「絵ときものでたどる 江戸時代のおしゃれ」
  - ・ひな人形展：4月1日（月）～6日（土）（予定）
  - ・七夕コンサート：7月6日（土）（予定）  
出演 男声合唱団コンパーレわかくさ
- \* 詳細は佐保会ホームページをご参照ください。

### 事務局より

- ・皆様の作品をお寄せください。ホームページ・支部だよりに掲載させていただきます。
- ・会員の皆様の受賞の情報などご存知でしたらお知らせください。広くご紹介したいと思います。投稿・情報のご提供は支部長までお願いします。
- ・**3月15日までに**平成30年度の会費納入をお願いいたします。未納の方には払込取扱票を同封していますのでできるだけゆうちょ銀行のATMで払い込みください。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方はATMを利用して口座間振替（月3回まで手数料無料）のご利用をお願いいたします。既に払い込み済みの場合はご容赦ください。
- ・住所・電話番号などを変更された方は支部長までご連絡ください。
- ・滋賀支部ではホームページを開設しています。「佐保会滋賀支部」でご検索ください。

### 《編集後記》

奈良女子大学は、今年創立110周年を迎え、5月には記念事業が計画されています。どうぞ奈良へお出かけください。学生時代と同じところ、大きく異なるところなど、久しぶりの奈良をお楽しみいただければ幸いです。

（浅野）

